

# 沼校区の福祉活動プラン

住民発！

沼校区小地域福祉活動第一次計画

ふれあいネットワーク  
沼校区社会福祉協議会

# 第1章 計画設定にあたって

## 1 計画の性格

### (1) 住民発信の行動計画

この計画は、沼校区の社会福祉協議会を中心に様々な福祉課題を解決するため地域住民や小中学校、民間団体等と協力し合い住みやすい校区を目指します。

### (2) 小地域の福祉を支える計画

この計画は、沼校区の住民たちの「福祉」を支えることを活動の原点とする計画です。

### (3) 北九州市社会福祉協議会・小倉南社会福祉協議会と協議して活動する計画

この計画は、北九州市社会福祉協議会・小倉南社会福祉協議会と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

### (4) 沼校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

## 2 計画の期間

令和5年度～令和9年度の五ヶ年とする。計画の期間中、地域を取り巻く環境が大きく変化すれば、見直しを実施します。

## 3 計画の設定経過

沼校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、小地域福祉活動計画設定委員会を設置しました。令和4年6月に立ち上げ、役員4名による検討会を2～3回程度実施し原案を作成し、14名の委員により3回に及ぶ協議の上、沼校区小地域福祉活動計画を設定しました。

(小地域福祉活動計画策定委員会名簿は別紙参照)

## 第2章 沼校区の現状と課題

### 1 地域社会の動向

沼校区データー

人 口	11,053 人	小 学 校	沼 小 学 校
世 帯 数	5,171 世帯	中 学 校	沼 中 学 校
高 齢 化	27,9%	公民館・市民センター	沼市民センター
一人暮らし高齢者数		地域包括支援センター	小 倉 南 区
その他社会資源等	グループホーム、介護施設、病院、公園等		

沼校区は、小倉南区の北東に位置し校区の南側には竹馬川、北側には足立山系の高蔵山があり自然環境に恵まれた地域です。又、300年以前より伝わりし伝統芸能の太鼓踊り”沼楽”があり、毎年5月3日には沼八幡神社にて奉納され福岡県指定無形文化財に指定されています。校区内には、学校や市民センター、介護施設、医療機関等の社会資源も充実しており交通の便も良好です。又、約20年前に大型の団地が開発され、10年前に商業施設もできました。

他の地域同様、高齢化が進んでいることや若い世代も多いことから、町内会の加入率も低下しており、今後の課題として町内会加入への取り組みが必要です。

### 2 地域の福祉課題

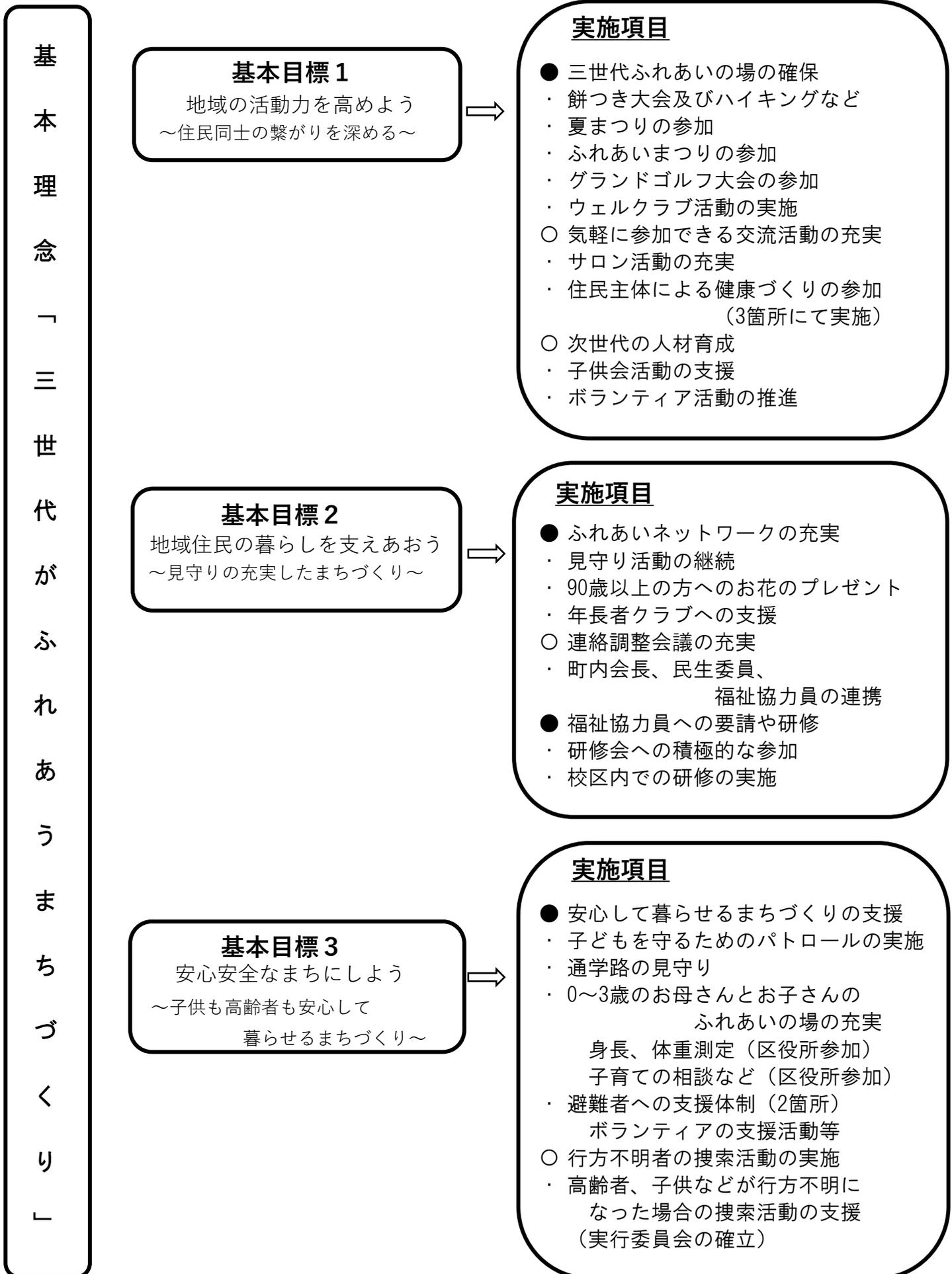
沼校区では、5年以上ふれあいネットワーク活動に取り組んでいますが高齢化に伴い役員になる人が少なく、又町内会の事情による福祉協力員の1年ごとの交代により、人材育成がなかなか出来ていない問題点があります。

沼校区は、44名の福祉協力員で385世帯の見守りを1ヶ月に1回程度実施しているが、あまり情報が入ってこない。又民生児童委員と福祉協力員との活動報告の共有化を図りたいです。新興マンションの住民などは町内会の加入率が悪い上に、個人情報保護などの理由により校区内の高齢者の実態が分かりにくい状況です。

今後の課題として比較的若く活動意欲のある方々に役員や福祉協力員をお願い出来るようにしたいです。又1年交代を複数年活動出来るように町内会長を通してお願いしていきたいです。

# 第3章 計画体系(案)

## 1 基本計画・基本理念



最重点項目	三世代のふれあい場の確保						
<b>1 課題背景及び地域の現状</b>							
<p>1 三世代間での交流の場が少ない。</p> <p>2 沼ふれあいまつりでは、園児や高齢者施設なども参加し、地域住民全体の交流を図っている。。</p> <p>3 沼校区は子ども達の参加型行事を多くすることにより、校区の活気をあげ、町内会加入促進につなげたい。</p> <p>4 地域住民と子ども達のふれあいを大切に、安全安心のまちづくりを目指している。</p> <p>5 高齢者の一人暮らしが校区内に210世帯以上あり、今後も増加が見込まれ、孤立化を防ぐ必要がある。</p>							
<b>2 活動の方針・目標</b>							
<p>1 餅つき大会などの交流の場を設け、小学生等に餅つき大会を経験させる事により、食べ物大切さを教える。</p> <p>2 沼ふれあいまつりは校区最大のイベントであり、園児・小学生等の参加する事により保護者間同士が顔見知りになる事が重要であり、又、子ども達に達成感を味あわせたい。</p> <p>3 コロナ禍のため、令和2年度から4年度は中止したが、R5年度はコロナと付き合いながら実施したい。 校区の役員と父兄等々が子供たちのために行事の準備をすることで一体感が生まれ、繋がりを深めいく。</p> <p>4 自然と触れ合う機会の少ない子ども達に、育てる工程や、できた芋の調理等を行うことで、食育の大切を学ぶと同時に、地域の人たちと交流を深めていく。</p> <p>5 高齢者ふれあいサロン、住民主体による健康づくり推進事業（グランドゴルフ、囲碁、あっぷるサロン）など、孤立化を防ぐためのふれあいの場を作ったり、健康づくりの支援を継続していく。</p>							
<b>3 段階的な取組みの年次計画</b>							
取組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
餅つき大会及び校区行事等の参加(ソトパレボール、ハイキング等)	連合会・まち協・社協 民生児童委員・子ども会等	→					餅つき大会は12月実施
ふれあいまつりの参加	体育員会・まち協・福祉協力員会・社協・地域の団体	→	→	→	→	→	11月に開催
夏まつりへの参加	連合会・まち協・社協等 体育員会・地域の団体等	→	→	→	→	→	8月に開催
ウェルクラブ活動の充実(芋づくり及び子ども会の活用)	連合会・まち協・社協等 子ども会・ボランティア等	→					芋づくりや行事共用のゴミ拾い等
住民主体による健康づくりの参加(沼町内生き生きサロン)	体育員会・年長者クラブ・連合会・まち協・民生児童委員	→					3回/週以上 沼本町公園
住民主体による健康づくりの参加(愛好会ふれあいサロン)	連合会・年長者クラブ まち協・社協	→					1回/週以上 沼公民館
住民主体による健康づくりの参加(あっぷるサロン沼)	地域の団体・連合会 まち協・社協・ボランティア	→					7回/月 エフコープ





最重点項目	安心して暮らせるまちづくりの支援						
<b>1 課題背景及び地域の現状</b>							
<p>1 校区内に高齢者施設も多数あり、年に数人の行方不明者が発生する</p> <p>2 地域の子どもは地域で守ることを念頭におき、少年補導員、民生委員、まち協役員が通学路に立ったり、青パトで巡回をし、登下校時の児童の見守りを行っている。</p> <p>3 避難所の運営をし、避難者の受け入れの支援を行っている。</p> <p>4 幼児向けの支援事業を実施しているが、情報発信が沼市民センターのHP、ぬまだよりに限られており、周知の徹底が必要である。又、実施した内容などの情報の共有化ができていない。</p>							
<b>2 活動の方針・目標</b>							
<p>1 高齢者や幼児など、ちょっとした瞬間に行方不明になることが考えられる。行方不明者が発生したら、即時に情報が伝達できる仕組みをR4年度までに確立し、行方不明者を検索する。R5年度以降は登録カードを作成し、登録者を増やし、安心して暮らせるようにしていく。</p> <p>2 パトロール等を実施することにより、校区全体で子どもを見守っている雰囲気を感じて欲しい。</p> <p>3 避難所では、誰でもが安心して避難できるように努める。ボランティアによる支援活動の拡充を図っていく。</p> <p>4 幼児向けの支援事業では、ボランティアを増やし、マンネリ化している内容を変更し新たな活動を増やし情報発信の工夫を行っていく。子育てが安心してできるまちにしていきたい。</p>							
<b>3 段階的な取組みの年次計画</b>							
取組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
検索活動	関係機関・社協・まち協 連合会	—————▶					随時
子ども守る会パトロール等の参加	関係機関・社協・子ども会 連合会・福祉協力員会	—————▶					7回/年 実施
避難所運営	社協・連合会・ 福祉協力員会・ボランティア	—————▶					随時
0～3歳のお母さんとお子さんの ふれあい場の拡充	関係機関・ボランティア 連合会・社協	—————▶					7回/年開催 身長等測定

## 第4章 計画の策定及び推進

### 1 地域への計画の承認と周知

- ① 校区の社会福祉協議会の総会や連絡調整会議等(5回/年)等で、社会福祉協議会活動者への計画策定の説明、活動の推進方法等の説明をする。
- ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関や地域の団体等に協力依頼する。
- ③ 地域住民には、回覧や配布等にて計画の概要を知らせる。

### 2 計画を策定及び推進するための体制

#### (1) 小地域福祉活動計画策定及び推進委員会の設置

計画を推進するために、沼校区小地域福祉活動計画設定及び推進委員会を設置し、計画の進行管理や実施方法等の検討、又、地域の団体に協力要請する。

#### 沼校区小地域福祉活動計画策定及び推進委員会名簿

	氏名	所属団体	役職	備考
1	田中 義則	沼校区社会福祉協議会	会長	委員長
2	園山 道秋	〃	副会長	副委員長
3	安部 克哉	〃	副会長	
4	北村佳代子	〃	副会長	
5	久藤 武司	沼校区自治連合	副会長	
6	時枝 誠二	〃	〃	
7	中村 亀夫	地区民生児童委員	沼地区会長	
8	檜原 政敏	保護司	代表	
9	上川 裕子	沼校区子ども会	会長	
10	河西 眞慈	悦和の郷	施設長	
11	古川 慧	沼校区年長者クラブ	代表	
12	薬師寺 誠	沼中学校父母教師会	会長	
13	四井 明大	沼小学校PTA	会長	
14	先本ありさ	沼市民センター	館長	
15	渡辺 修一	沼校区社会福祉協議会	顧問	